南部中ホームページ （http://www.nanbu-chu.ed.jp/）はこちらから →

南部町立南部中学校　学校だより　第１４号

チーム南部中

令和３年10月29日（金）
校長　望 月 和 彦

今までにない修学旅行　長野・富山・富士北麓の旅

例年の修学旅行であれば，４月半ばに広島・奈良・京都を３泊４日でめぐるのですが，昨年度末から今年度にかけての新型コロナウイルス感染症の状況から，10月に延期し，さらに方面を長野・富山・山梨に変更して，今までにない２泊３日の修学旅行となりました。

10月12日（火）の朝６時，大勢の保護者に見送られながら道の駅とみざわを出発しました。コロナ対策のための町の支援を受け，大型バス３台に分かれてゆったりくつろぎながら，一路長野県大町市をめざしました。初日の訪問地は立山・黒部アルペンルートです。扇沢駅から電気バスにのり，黒部ダムに到着すると，直後の展望台は霧で真っ白。どこにダムがあるのかさえも見えずに悔しい気分でいると，数分のうちに霧がなくなり，えん堤の高さ日本一を誇る黒部ダムと湖，ダムからの大迫力の放水を見ることができました。生徒たちからは歓声が上がり，全員で記念写真を撮りました。黒部ダムからケーブルカーに乗り，次のロープウエイでは黒部平から大観峰までの大紅葉の絶景を眺めることができました。延期になったり，行き先が変わったりした修学旅行でしたが，神様はがんばっている生徒たちに素晴らしいプレゼントを与えてくれたようです。その後，トローリーバスで標高2,450mの室堂平へ。お昼に富山名物白魚の天ぷらを食べた後で，みくりが池周辺を散策していると，霧の隙間から荘厳な立山連峰も眺めることができました。初日は同じルートを戻り，長野市内の宿舎に泊まりました。

２日目は，長野県にある２つの国宝の見学です。最初の善光寺では，あいにくの雨模様でしたが，善光寺の歴史や文化財についてガイドさんの説明を聞きながら，山門の「鳩字の額」を眺めたり，本堂では「御戒壇めぐり」をしたりしました。真っ暗闇の地下通路で「極楽の錠前」を探り当てて，多くの生徒が高校入試に向けて合格祈願をしていました。次の見学地の松本城では雨もやみ，美しい庭園や外からの天守閣を眺めることができました。天守閣内部の見学は感染症対策のために人数制限をしていて，40分待ちという状況でしたが，「ここまで来て天守閣に登らないと意味がない」と判断し，全員で行列に並び天守閣最上階まで見学しました。狭く急な階段を上りながら，400年という時の長さと戦国時代や江戸時代の武士の生活に思いをはせることができました。松本城の見学時間が延びてしまったので，山中湖のKABAバス（水陸両用バス）の体験はキャンセルし，２日目の宿舎に向かいました。

１日目の宿舎のROYAL HOTEL長野は，長野オリンピックの際に天皇陛下も宿泊された立派なホテルでしたが，２日目の山中湖の宿舎ホテルマウント富士も会員制の素敵な広い部屋を生徒たちに用意してくれました。特に，２日目の夕食はフランス料理のコースが出され，ホテルの講師からテーブルマナーを教わりながらおいしい料理に舌鼓を打ちました。２日間とも宿舎の中では，全体やクラスのミーティングを行い，その日の反省や次の日の行動を確認したり，思い出をまとめたりしました。生徒たちから聞いた話では，それぞれの部屋の中では普段できない様々な深い話（？）をしたり，将棋やトランプをしたりしながら旅の思い出をつくることができたようです。

最終日はまず，北口本宮冨士浅間神社を見学しました。太郎杉や夫婦桧の巨木や木花開耶姫命などを祀った拝殿，日本武尊を祀った大塚丘などを

見学し，富士山信仰の歴史を学ぶとともに，多くの生徒たちが学業成就や合格祈願，家族の幸せなどを祈っていました。そして，最後の見学地である富士山五合目へ。五合目の駐車場に着くと霧であたりは真っ白。「せっかく，ここまで来たのに」と私も生徒たちも思いましたが，予定通りに御中道めぐり（トレッキング）を始めました。ハクサンシャクナゲやダケカンバ，コケモモなどの高山植物や溶岩，雪崩についてベテランのガイドさんに教えてもらいながら歩いていると，またもや霧が流れて，太陽の光に輝く壮大な富士山が姿を現してくれました。ここでもみんなで記念撮影。「この生徒たちはきっと何かを持っている」と強く感じました。生徒たちはトレッキングの後のおいしいお昼ご飯を食べ，家族へのたくさんのお土産を買って帰路につきました。

旅行中に参加した生徒たちは，大きな体調不良や事故もなく，３日間の行程を無事に終了することができました。そして，取り組み期間が短かったにもかかわらず，学年や各学級のリーダーが行動や心構えについての指示を出し，各係の生徒が自分の役割を責任を持って果たそうとしていました。何よりも，参加した一人一人が周りにいる仲間のことを考えながら，みんなで修学旅行を成功させようと行動していたことが感じられた３日間でした。これまでの学校生活の中で生徒たちが培ってきたことが，この修学旅行にいかされていました。一人一人にとって中学校生活の大切な思い出になったことでしょう。

より良い授業をめざして　保健の研究授業

学校だよりの第８号，第 10 号でも紹介しましたが，本校では校内研究会という組織を使って「より良い授業づくり」に取り組んでいます。10 月 25 日（月）には遠藤浩正教諭による保健体育の研究授業を行いました。単元は「感染症の予防」というタイムリーな内容で，全６時間の計画です。生徒たちは最初の２時間で，教師から感染症，性感染症，エイズとその予防についての基礎的な知識を学習したあと，そこから発生する４つの課題についてグループに分かれて調査し，考えをまとめました。４つの課題は「感染症と人権問題」「感染症が拡大したときの行動の仕方」「性感染症と若者の予防法」「ＡＩＤＳとＨＩＶ検査」です。ChromeBook を使って，インターネット上の関連サイトから情報を集めたり，教科書の資料を活用したりして，課題について調べた情報と自分たちの考えをプレゼンテーションするためのスライドを作成しました。作成には授業で３時間，間に合わない部分は ChromeBook を自宅に持ち帰って準備したそうです。研究授業では，別々の課題について調べた生徒で４人ずつのグループをつくり，それぞれが作ったスライドを使って発表しました。生徒たちがつくったスライドがとてもわかりやすくできていたことに驚くとともに，他の生徒の発表を真剣に聞き，それに対して質問や意見を述べる生徒たちの姿に感心しました。これまでの学校生活の様々な場面で積極的に話し合い活動を取り入れてきたことが，今日の授業の中にいかされていたと感じました。自分たちで発表内容を考え，互いに発表し合い，学び合う中で，感染症とその予防法についての知識や考えを深めていく過程が，「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした実践でした。研究会の中では「１時間の内容としては内容が盛りだくさんだった」「自分の言葉で発表できていた生徒もいたが，文字を読んでいる感じの生徒もいた」などの課題点も指摘され，峡南教育事務所の一瀬清指導主事からは，主に指導案の作り方についてのアドバイスをいただきました。より良い授業づくりについては，学校全体でこれからも取り組んでいきます。

玄関で素敵な菊が生徒や来校者を出迎えています

昨年度まで本校に勤務していた久保田美穂先生が，ご自宅で丹精込めて育てられた菊８鉢を東側玄関に飾ってくれました。３本仕立ての８鉢は，それぞれ花の色や形が違って，もう少しで満開になりそうです。学校が明るくなり，生徒たちや来校者，教職員の心を和ませてくれています。ありがたいことです。